

特集

楽しんでいただけますか？

「男の子育て」part 2



育児を積極的に楽しむ

「イクメン」に注目が集まっています。

とはいえ、現実には

男性の育児参加は難しい？

と感じている人も

多いのではないのでしょうか。

今、イクメンが求められる背景に

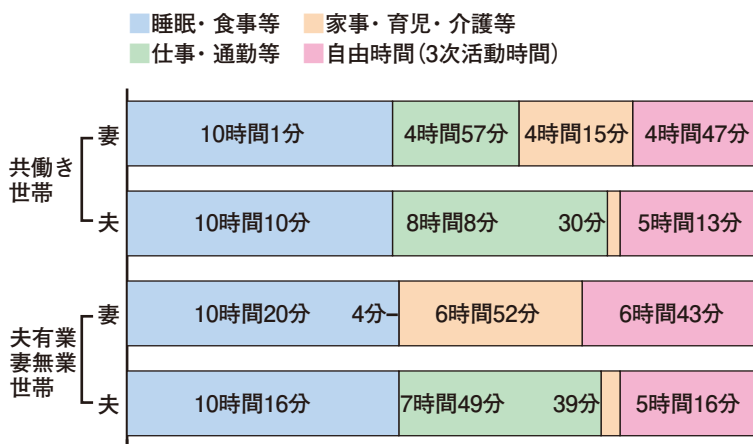
スポットをあてるとともに、

男性も子育てを楽しめる

社会に向けた課題について

探ってみました。

データ1 ◆夫婦の生活時間



資料：総務省「社会生活基本調査」(平成18年)より作成

イクメンが求められる背景

一つには女性に偏る子育て環境があげられます。データ1にみられるように、男性の1日の家事・育児時間は共働き世帯、夫有業・妻無業世帯に関わらず30分程度で、女性の負担が重くなっています。

かつて3世代家族が主流だった時代、子育ては家族や地域全体で担っていました。核家族化が進み、共働き世帯が半数を超えるなか、女性の育児への負担が軽減されなければ、仕事を続けることはもちろん、子育てを楽しむみさらに次の子どもを持つという気持ちになりにくく、子どもを産み育てることをためらう要因の一つになることが懸念されます。こうした状況を変えていくためには、男性の積極的な育児参加が不可欠といえましょう。